第九章 社部

テレ 視聴 ピ 者 局 が は B 田中と大家 む を得ず 社説 L か をあ 1 ない る新 か らい 聞 社 に くら訴えても社会は反応しない。 掲載することにした。 某新聞 社 には そこで山 その 内 本が 容 に 属する 賛 同

そ \mathcal{O} 題 名 は 唯 \mathcal{O} 格 差 動 物 地 球 上の あらゆ る生命体で格 逆差が あるの は人 類だけであ る

う内容でその全文は次のとお

'n,

ると快

諾

して

無

料

で掲

載

L

てくれ

た

*

種族は が 者や富裕層たちが自由 は本当に神が 由」を、そして 2子を産 平等を勝ち得たと誇らしげに人類は語るが 人種や国にかかわらず貧困にあえぐ人々を見るにつけどこに平等が存在する Ņ ない。 み育てるためにどれだけの愛情を注ぐことか。 創造 人類だけが不平等という卵から生まれてきたのだろうか。「平等」と並んで「自 「博愛」を勝ち取ったとほんの二百年ほど前にある国がその理念を国 した動物なのか。 に搾取しているのではな ほ カ の生命体と人類はあま ほか 1 か。 0 地 球 目に見える範囲に 人類が行う虐待など存在 上の 生命体で現在に至るまで不平等な りにも格差がひどい。 限って見ても動 しな \tilde{O} か。 旗 物 (に表現 権力 は 類 我

ま

ŋ

成

長

は

生ま

れ

な

 \mathcal{O} 道を歩 平等は け る 者 は 同 時 1 わ に実現されることはない。 ゆ る 権 力 者 あ る V は 金 持 ちであ 表街 道に平行し る。 道 が 表 て必ず裏街道が 街 道だけ だ 0 たら、 ある。 この つま 両方 ŋ

公

正 一な道 だ け な 6 平 等 は 維 持 され

吸 が n カン 成 Ļ 格差を生じさせ 成 V 上 果 長 げ に 皮 に 肉 は は な 競 必 ず こと 成 争 果 偏 が ない を生 に 欠 ŋ 成 が カ 税 み あ 長 せ 出 る。 は な 政を施行すれば成果を上げようと競争に参加する人は 平等を脅 せ \ \ • 人気 な 公正 カ 0 が た人 あ カン な す。 る ル 成 Z] 果 そ ル に分配され に に n 基づ 群 は が 成 ĺ١ る者 長 る て競うことによって成 \mathcal{O} Ō に 成 なら 富 果 が が 格 集 様 差 中 Þ は す な Ź。 形 生じな 態をとる \ <u>`</u> 0 長 V 富 が 生 なくな L を カュ 税 ま カコ 5 れ 政 つま 府 7

は カン 0 ような政 保 50 資 身 本 主 権力 に . 走る。 義 者 治 であろうと社会主義であろうと共 は 形態をとろうとその頂点に必ず権力者が 最 山 0 高 頂 0 権 上にたどり着けばその先 力を手に入れようとあらゆる手段を使って登り詰める。 産 の道はすべて下り坂だか 主義であろうと欲望主義には いてその権力者は らだ。 欲望主義者その 対抗 それ そ できな の に 比 途 端今 ŧ れ 0 度 だ شلح ば

n 七 j 最 ノにできるわけ \mathcal{O} は 権 か 力 な は ŋ ほ つでは 0 W 努 \mathcal{O} ない。 力 は 握 必 り 要だが 気が 0 人に つけば しか 誰 に だ 手に入らな 1 つの 0 てチ 間 に ヤ いが か ン 中 ス 間 は 富 層 あ 裕 層 る。 から生活困 の門戸 L か なは広 第層に落ちてしまう。 必ず い。 富裕 L チ 層 t に仲

ス

富

裕

層

0

欲

望

は

知

n

7

1

する負

荷

が

大

き

人

に

は

環境

を悪

化

させ

るだ

け

0

経

済

力

が

な

1

と 血 層 な \mathcal{O} 欲 は 0 動 7 望 眼 子 物 に 供 は 11 は 子 なることは た 子 る ち 孫 孫 繁栄 に な を残すた 少 ぜ L な に な で 6 限 ŧ 未 め 5 1 多く 来 れ に む 0) て 日 子 夜 L \mathcal{O} V ろ ども 以戦う。 財 るわ 結 産 果とし たち け を残そうとあ 彼ら で Ē は 劣 て貧乏人は な の欲望は子孫を繁栄だけである。 悪 11 な 環境 それ ŋ とあ を提 環境 どころ 6 を守 ゆ 供 る手 カュ L 0 7 てい を V V 使 る まや子孫 うが る。 0 であ 消 それ る。 極 ょ などどうでも 的 11 に す で 環 比 あ 境 な わ べ る な て が 残 ち そう 人間 ょ <

便 ば そ や薬とか くぐら 利 ħ れ 人 な は 類 7 最 モ V 0 とい るあ 程度 欲望 ŧ ノだが 非 う抽 効率 0 \mathcal{O} に 自 誰 人 は 数し な輸 が 動 象的 V 見 車 ろ か輸 送手段である自動 V ても効率 な ŧ t ろ 5 送し な 0) で ろ t が $\bar{\lambda}$ ない は 0) 非常に なく、 小 が 型車 · 自動 あ るが 悪 車 車 具 や二輪車 い。 体的 だ。 だ。 ー つ にズ だけ L フェラーリや 1 - ラッ Ė カ あ バ t あ リー その るが クやバス げ るとすれ 製造 つだけ ポ 1 、やブル 過 わ ル 程 シ あげ ば、 ゆ る乗 エ でも使用 るとす B ド 例えば 用 口 車 1 ザ 過 は ル で れ お ば 程 所 ス は 金 で 有 口 な 何 B 'も環 ₹ — する 1 だろう エ ス ネ 境に とか 人か二 人に ル ギ は 対 呼

権 力 不 -思議 て宝 0 象 徴 石 なことに か に Þ 環境 家 な 0 は た 昔 粗 負荷をかけ ŋ カン 末 財 5 な家に住 産 存 的 在 な L てい んで 価 値 のでも を有 たが、 いても車だけ L ない。 たりとそれ 自 動 車 は が 高 出 自 現 級 体 L 車 が た に 日常生活に役立 乗 0 小りたが は つい 最 る人も 近のことだ。 V つというも る。 高 宝 価 のでは 石 な 類 ŧ は 0

な

L

t

に

るも

ったく異な 家というも る次 0 は生活 元 \mathcal{O} 欲 望と言える。 の基盤である。 豪華な家に住みたいという欲望もあるが、 自

動

車とはま

者 そ と殺してしまうと権 に れ 人 · を 免 玉 \Box 民 が 増 れ 0 るた 欲 え 望 れ 8 を ば 満たそうと政 に 欲 万 望 権 者 力者 0 0 数も増える。 周 は りに 武 策 器で身を守ろうとする。 を展 は 誰 もい 開 新しく現れた便利グッ するし、そうしないと権 なくなる。 一人っきりに し かし、 ズが多い 力者に その なっ 武 ほど欲望も増える。 は て 器 下り 独 で 玉 人とな 坂が 民 を従 待 わ 7 権力

情 \mathcal{O} 奴隷 に成 り下 がり自然を征 服する野望 のためにしか使 わ れ な

欲望

は

感

情

であ

る。

感情

を持

ち知恵を持

つ人間

は自

然

0

秩

序

を悟ろうとは

しな

知

恵

感

満たす物質を産み出そうとする共産主義か をこの さげすんだやり方である資本主義を人間 戦 争の道具 方、 世 人間 . (T) 中 からなくせばどうなるのか はもってのほかだが、そしてエア は 社会的 動物と呼ばれる。社会主義である。 実 自 |体が 証 ら共の助け合って生きていこうとする共生主 実験すべきではないか。 主体性を持 コンは残すとしても、 人間 つ人本主義へ。共にどんどん欲望を も生産の 当然経済は縮 まず個 ため 人用 の道具だと自らを 0 自 小 す 動 軍だけ 一義へ。 経

済優先と決 別する実験としてこれほどの 野心的な試 みはな 1 だろう。

た。 生命 類 以 外 0 ゆ . О ŋ 生命 か こで 体は ある地 人類 の経済活動によって自分たちの生きるため 球 が火星化すればすべての生命体は平等に滅亡す の活 動 を縮 小させられ

ただしウイル

スを除

いて。